



丸亀製麺 環境経営レポート

2019年度

株式会社トリドールホールディングス

TORIDOLL→

発行日：2020年3月1日

対象期間：2019年11月～2020年1月



目次

表紙	
目次	1
1.会社概要	2
主なブランド紹介	3
2.対象範囲	4
3.環境活動の推進体制	5
4.環境経営方針	6
5.環境経営目標(トリドールジャパン)	7
6.環境データ	8
7.環境経営目標・実績(10店舗合計)	9
8.環境活動計画および取組実績	10
9.環境関連法規等の遵守状況	11
10.代表者による全体評価と見直し	12

1.会社概要

会社名	株式会社トリドールホールディングス
主な事業内容	飲食業を中心とする傘下子会社の経営管理
主なブランド	讃岐釜揚げうどん「丸亀製麺」
	焼鳥ファミリーダイニング「とりどーる」
	とんかつ・とんテキ専門店「豚屋とん一」
	美と健康のライフスタイルブランド「SONOKO」など
設立	平成2年6月11日 有限会社トリドールコーポレーション設立
	平成7年10月28日 株式会社トリドールに組織変更
	平成28年10月1日 持株会社体制移行に伴い株式会社トリドールホールディングスに商号変更
資本金	4,100,163千円(2019年3月31日現在)
東京本社	〒150-0043
	東京都渋谷区道玄坂1-21-1渋谷ソラスタ 19階
	TEL : 03-4221-8900(代表) FAX : 050-3156-0890(代表)
神戸オフィス	〒651-0088
	兵庫県神戸市中央区小野柄通七丁目1-1 日本生命三宮駅前ビル11階
	TEL : 078-200-3430 FAX : 078-200-3431
代表取締役	【代表取締役社長 兼 CEO (最高経営責任者)】栗田 貴也
主な関係会社	株式会社トリドールジャパン(日本) 株式会社トリドールビジネスソリューションズ(日本) 株式会社SONOKO(日本) TORIDOLL USA CORPORATION(米国) 東利多控股有限公司(香港) 台湾東利多股份有限公司(台湾) GEORGE'S CORPORATION(米国) TORIDOLL KOREA CORPORATION(韓国) TORIDOLL DINING CORPORATION(米国) WOK TO WALK FRANCHISE B.V.(オランダ)

トリドールホールディングスHPより(2020年1月31日時点)

環境担当部門	トリドールホールディングス CSR推進室 Mail: ems@toridoll.com
--------	--

主なブランド紹介

讃岐 釜揚げうどん
丸亀製麺



本格的な讃岐うどんのおいしさを、セルフ形式で。国内全ての店舗で「打ちたて」「茹でたて」をお出ししています。

Kona's Coffee
Hawaiian pancake Cafe



一杯づつドリップで淹れるハワイのコナコーヒーとふわふわ生地が自慢のパンケーキを提供するハワイアンカフェ。

揚げたて
天ぷら定食 まきの



揚げたてのおいしさにこだわる天ぷら定食の専門店。ご注文後に揚げるので、熱々のおいしさを楽しめます。

とんかつ かつ丼
豚屋とん一



豚肉のカットから衣付け、仕上げまで、お客様の目の前で全て行う素材にこだわり抜いた、切りたて、揚げたて専門店。

炭火烧鳥・唐揚げ・釜めし
とりどーる



家族みんなで楽しめる本格炭火烧鳥店。毎日店内で串を打ち、丁寧に炭火で焼き上げています。

焼きそば専門店
長田本庄軒
神戸 自家製麺

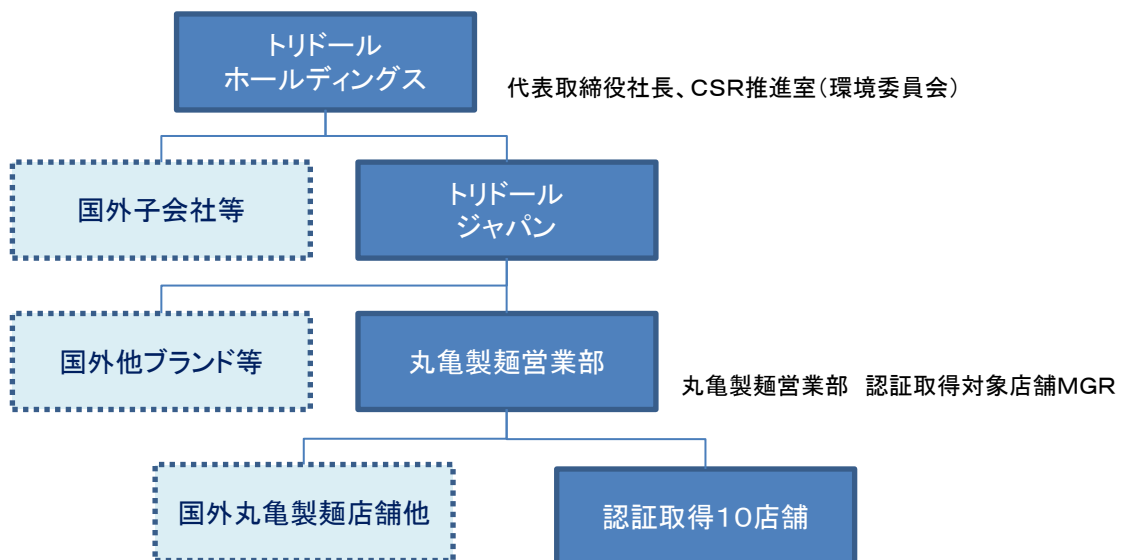


店内製麺したもちり中太麺と、神戸下町の濃厚な味わいが特長の焼きそば専門店です。

2.対象範囲

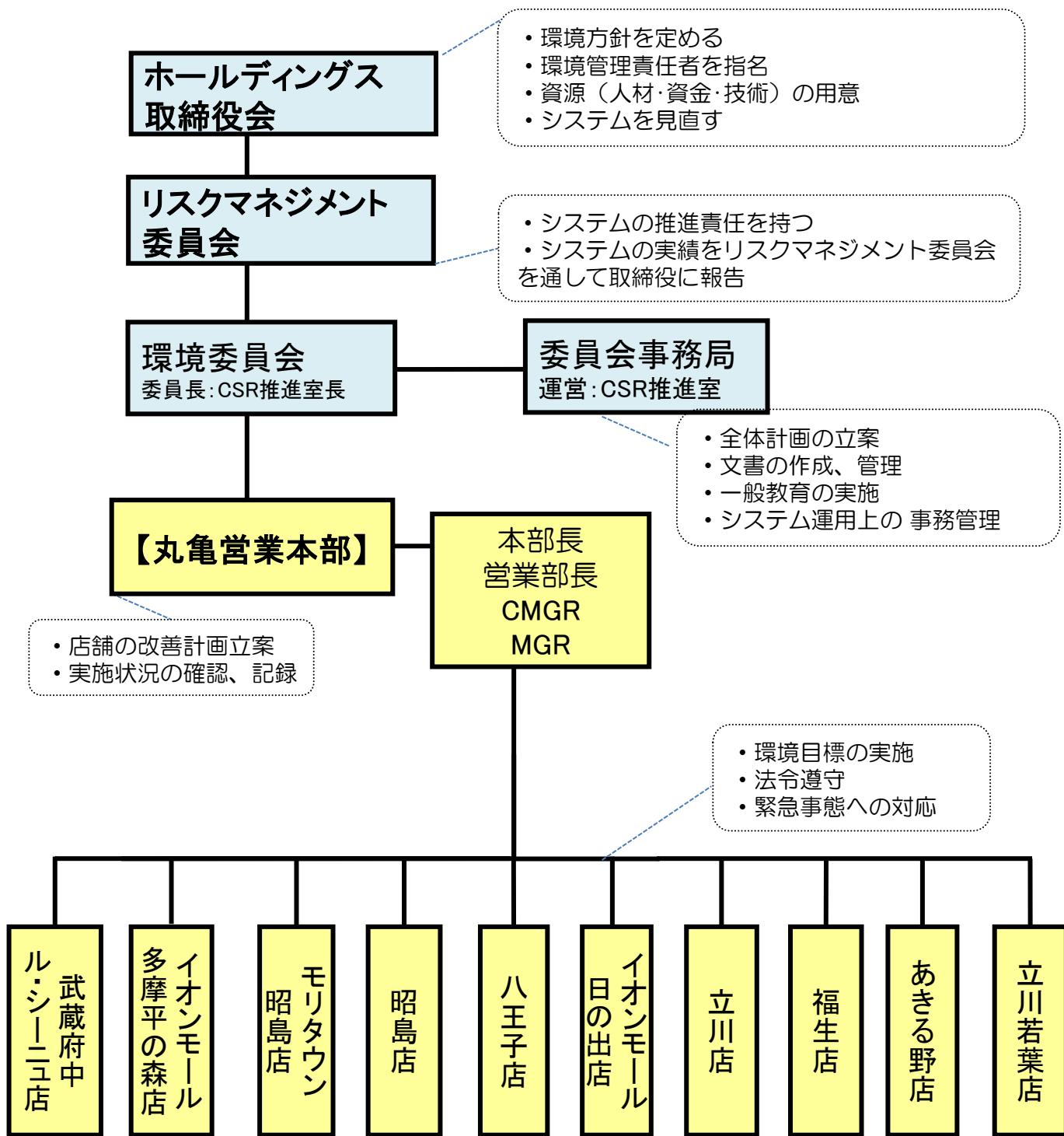
認証取得対象部署	所在地
株式会社トリドールホールディングス CSR推進室	東京都渋谷区道玄坂1-21-1 渋谷ソラスタ19階
株式会社トリドールジャパン 丸亀製麺営業本部	東京都渋谷区道玄坂1-21-1 渋谷ソラスタ19階
丸亀製麺 昭島モリタウン店	東京都昭島市田中町562-1 モリタウン東館2F
丸亀製麺 福生店	東京都福生市福生1067-5
丸亀製麺 イオンモール日の出店	東京都西多摩郡日の出町大字平井字三吉野桜木237-3 イオンモール日の出3F
丸亀製麺 立川店	東京都立川市栄町3-5-1
丸亀製麺 あきる野店	東京都あきる野市秋川6-7-10
丸亀製麺 立川若葉店	東京都立川市若葉町3-8-1
丸亀製麺 八王子店	東京都八王子市檜原町623-1
丸亀製麺 昭島店	東京都昭島市郷地町3-1-3
丸亀製麺 イオンモール多摩平の森店	東京都日野市多摩平2-4-1 イオンモール多摩平の森1F
丸亀製麺 武蔵府中ル・シーニュ店	東京都府中市宮町1-100 ル・シーニュ1F

【注記】認証範囲は、2022年度まで国内丸亀製麺全店舗、2023年度までにトリドールジャパン全社(国内営業部門全体)に段階的に拡大する予定。



3. 環境活動の推進体制

㈱トリドールホールディングス
 ㈱トリドールジャパン



4.環境経営方針

私たち、トリドールは、自然の恵みである「食」を扱う企業の責任として、下記の4つの行動基準のもと環境問題に積極的に取り組み、社会の持続的発展に貢献します。

1. 持続可能な社会へ

私たちは、事業活動が環境に与える影響を正しく理解し、社会の持続的発展に向けて、温室効果ガスの排出抑制と、資源の有効活用に取り組みます。

2. 法令の遵守

私たちは、環境に関する法規制を遵守し、社会的要求事項についても自主的に目標を定めて推進します。

3. 環境に配慮した開発と人づくり

私たちは、環境に配慮した店舗、商品、サービスの開発と、環境意識の高い人材の育成を推進します。

4. 環境マネジメント

私たちは、環境目標を設定し、目標達成のための行動計画を定め、継続的な環境負荷の低減を目指します。

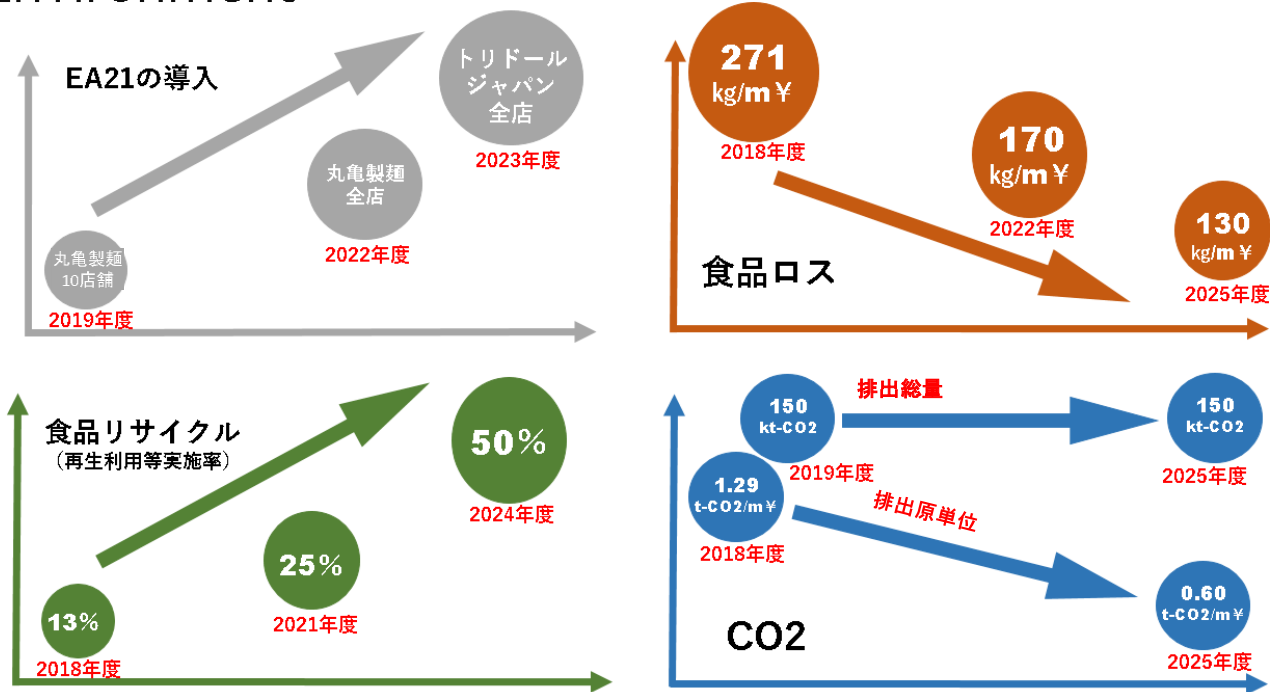
改訂日：2019年12月1日

制定日：2017年3月17日

株式会社トリドールホールディングス
代表取締役 粟田 貴也

5.環境経営目標:トリドールジャパン

Environment



項目	主な取組、検討課題	目標数値項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
食品廃棄物 排出量削減	・ 麺廃棄の取組 ・ 油カス搾り機の導入 ・ 丸亀製麺以外の取組	排出量 原単位 (kg/百万円)	271	260	240	210	170	150	140	130
食品リサイク ル率の向上	・ 生ゴミ処理機の導入 ・ リサイクルループの構築 ・ 飼料化、肥料化、燃料化の 推進	再生利用等 実施率	13%	15%	20%	25%	30%	40%	50%	55%
CO2 排出量削減	・ 省エネ釜の導入 ・ 店舗照明のLED化 ・ 再生可能エネルギーの導入	総排出量 (kt-CO2)	135	150	150	150	150	150	150	150
		排出量 原単位 (t-CO2/百万円)	1.29	1.27	1.11	0.97	0.86	0.77	0.68	0.60
水資源の 有効活用	・ 水量調整バルブの導入 ・ 各種節水対策の取組	使用量 原単位 (m/百万円)	53.6	53.0	52.5	52.0	51.4	50.9	50.4	49.9
環境マネジメント システムの導入	・ エコアクション21の導入	導入店舗数	—	丸亀製麺 10店舗	丸亀製麺 40店舗	丸亀製麺 200店舗	丸亀製麺 全店	トリドール ジャパン 全店	→	

【目標設定について】

※食品廃棄物の排出量削減及びリサイクル率向上を最優先の環境課題として解決に取り組む。

※自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善については、環境配慮型のレジ袋導入を2020年度に導入を目標としている。2021年以降はプラスチック容器の削減に取り組んでいく計画としている。

※化学物質使用量の削減については、使用そのものが無いため目標からは除外する。

6.環境データ

【トリドールジャパン全体：2015年～2018年度データ】

トリドールジャパン全社 集計		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
売上【千万円】		89,315	93,881	101,409	104,815
エネルギー消費量 【原油換算 kl】		65,759	65,049	65,774	68,909
エネルギー消費量 【売上原単位 /m ³ 】		0.7363	0.6929	0.6486	0.6574
内訳	電力【kWh】	214,056	210,257	213,604	219,059
	液化石油ガス【kg】	3,489	3,402	3,322	4,630
	都市ガス【m ³ 】	5,270	5,591	5,565	5,664
CO2排出量【t-CO2】		141,111	136,256	134,385	134,930
CO2排出量 【売上原単位 t-CO2/m ³ 】		1.580	1.451	1.325	1.287
水道使用量【m ³ 】		-	-	-	5,012,886
水道使用量 【売上原単位 /m ³ 】		-	-	-	47.8
食品廃棄物【t】		22,028	23,524	24,836	28,388
食品廃棄物 【売上原単位 kg /m ³ 】		246.6	250.6	244.9	270.8
再生利用等実施率 【全社推計】		23.4%	20.5%	17.5%	13.3%

※水道使用量は2018年度より計測開始

【エコアクション認証範囲店舗：2018年度データ】

店舗別年間集計（2018年 度）	110160 福生	110226 立川	110396 あきる野	110625 立川若葉	110854 昭島	110739 八王子	110992 ル・シーニュ	110934 AM多摩平	110178 AM日の出	110044 昭島MT	
エネルギー消費量 【原油換算 kl】	61	74	82	78	81	64	64	51	65	50	
エネルギー消費量 【売上原単位 /m ³ 】	0.8136	0.6400	0.8792	0.6439	0.7583	0.7922	0.4270	0.4954	0.5176	0.5585	
内訳	電力【kWh】	※125,456	※181,377	328,080	312,059	321,882	254,831	119,698	113,392	106,419	92,450
	液化石油ガス【kg】	23,004	21,948	-	-	-	-	-	-	-	-
	都市ガス【m ³ 】	-	-	-	-	-	-	29,577	20,715	34,151	24,129
CO2排出量【t-CO2】※	134	157	163	155	161	127	131	104	129	101	
CO2排出量 【売上原単位 t-CO2/m ³ 】	1.787	1.358	1.748	1.280	1.507	1.572	0.874	1.010	1.027	1.128	
水道使用量【m ³ 】	6,608	5,741	5,465	4,620	6,435	4,646	10,838	6,048	4,411	6,346	
水道使用量 【売上原単位 /m ³ 】	88.1	49.6	58.6	38.1	60.2	57.5	72.3	58.7	35.1	70.9	
食品廃棄物【kg】	17,486	26,256	21,038	60,130	25,012	18,138	43,761	※SCが全テナントの廃棄物を一括して排出事業者として管理しているため管理対象から除外			
食品廃棄物 【売上原単位 kg /m ³ 】	233.2	227.1	225.6	496.4	234.2	224.5	291.9				
再生利用等実施率【%】	100%	0%	100%	0%	0%	0%	100%				

※電気事業者別排出係数(2018年度)

東京電力：0.000475【t-CO2/kWh】

中部電力：0.000476【t-CO2/kWh】※

7.環境経営目標・実績(10店舗合計)

【2019年11月～2020年1月の環境負荷目標と実績】

対象項目	数値項目	単位	11月	12月	1月	合計	評価	次年度の取組
売上	売上前年比	%	102.6%	104.9%	109.9%	105.7%		
電力	電気使用量(実績)	kWh	158,435	160,353	135,276 *1	454,064	未達成	目標値に対しての乖離が大きく目標の立て方を再度見直しを行う。売上原単位に対しては合計で0.4%増と微増且つ2020年1月度に関しては、-5.4%を達成。数値的な改善が進んでいない福生店と八王子店を重点取組店舗として、現在進めている『釜』『湯煎』の再教育を行う
	電気使用量(目標)	kWh	149,418	149,053	129,432 *1	427,903		
	目標比	%	106.0%	107.6%	104.5%	106.1%		
	前年比	%	105.0%	106.5%	103.5%	105.1%		
LPガス	ガス使用量(実績)	m ³	1,769	1,830	1,634 *2	5,233	達成	「茹で釜」のガス使用量の調整を引き続き実施。ガス釜の構造を店舗責任者が理解し、その内容を責任者から各従業員へ教育することで改善を進める
	ガス使用量(目標)	m ³	1,892	1,967	1,914 *2	5,774		
	目標比	%	93.5%	93.0%	85.4%	90.6%		
	前年比	%	92.5%	92.1%	84.5%	89.7%		
都市ガス	ガス使用量(実績)	m ³	9,064	10,354	10,422 *2	29,840	未達成	店舗間の目標達成度合いに乖離がある。未達成の昭島モリタウン店、イオンモール多摩平の森に対し「茹で釜」のガス使用量の調整について再教育を実施。ガス釜の構造および調整方法を店舗責任者が理解し、その内容を責任者から各従業員へ教育することで改善を進める
	ガス使用量(目標)	m ³	9,362	9,987	10,409 *2	29,758		
	目標比	%	96.8%	103.7%	100.1%	100.3%		
	前年比	%	95.9%	102.6%	99.1%	99.3%		
CO2	CO2排出量(実績)	t-CO2	99.4 *6 *7	103.4 *6 *7	91.2 *6 *7	294.0	未達成	電気および都市ガスにおいて、使用量の目標未達成が発生している。特に電気使用量について、目標との乖離が大きいため、電気使用についての教育を最重要課題として進める
	CO2排出量(目標)	t-CO2	96.1 *6 *7	97.5 *6 *7	89.0 *6 *7	282.6		
	目標比	%	103.5%	106.0%	102.5%	104.0%		
	前年比	%	102.4%	105.0%	101.4%	103.0%		
水道	水道使用量(実績)	m ³	1,866 *3	4,488 *4	2,759 *5	9,113	達成	個店ごとの解析で水道使用量の実績が目標を上回った店舗は、『釜』、『湯煎』ポジションの従業員への教育を店舗責任者から実施することで改善を進める。特に数値的な改善が遅れている立川若葉店を重点取組店舗とする。
	水道使用量(目標)	m ³	2,012 *3	4,335 *4	2,867 *5	9,213		
	目標比	%	92.7%	103.5%	96.2%	98.9%		
	前年比	%	95.3%	104.6%	95.3%	99.7%		
廃棄物	食品廃棄物量(実績)	kg	15,971 *5	14,403 *5	14,917 *5	45,290	達成	お客様の来客数に合わせた調理量の教育を引き続き進める
	食品廃棄物量(目標)	kg	17,731 *5	18,345 *5	16,017 *5	52,093		
	目標比	%	90.1%	78.5%	93.1%	86.9%		
	前年比	%	89.2%	77.7%	92.2%	86.1%		
	再生利用等実施量(実績)	kg	8,737 *5	8,629 *5	8,236 *5	25,602	達成	食品廃棄物のリサイクルを実施している店舗において、分別の徹底および生ゴミ処理機の正しい使用方法などを継続的に教育する。
	再生利用等実施量(目標)	kg	7,888 *5	7,197 *5	8,379 *5	23,464		
	目標比	%	110.8%	119.9%	98.3%	109.1%		
	前年比	%	116.3%	125.9%	103.2%	114.6%		
	再生利用等実施率	%	54.7%	59.9%	55.2%	56.5%		

※電力・ガス・水道の目標値は前年使用量の1%減に設定

※食品廃棄物量の目標値は前年使用量の1%減に設定

※食品リサイクル量の目標値は前年実施量の5%増に設定

※当社はPRTR法対象の化学物質は使用していません

※可燃ごみに関しては、今回取組外のため表から除外

*1 昭島モリタウン、イオンモール日の出、イオンモール多摩平の森はデータ未取得のため除外

*2 LPガス使用2店舗(福生、立川)、都市ガス使用4店舗(昭島モリタウン、イオンモール日の出、イオンモール多摩平の森、武蔵府中ル・シーニュ)

*3 取得可能な昭島モリタウン、イオンモール日の出、イオンモール多摩平の森の3店舗分の合計

*4 データ未取得の昭島は除外

*5 データ未取得の昭島モリタウン、イオンモール日の出、イオンモール多摩平の森は除外

*6 データ取得分の合計値

*7 CO2排出係数は、東京電力0.000475[t-CO2/kWh]、中部電力0.000476[t-CO2/kWh]、LPガス0.0066[t-CO2/m³]、都市ガス0.00223[t-CO2/m³]

8.環境活動計画および取組実績

【環境活動計画】

店長の手引き「フードマネジメント」、「経費コントロール」項目から抜粋し、責任者教育、従業員教育と順を追って実施。

●今期取組内容

I. フードマネジメント

- ①仕込表の運用
- ②発注表の運用
- ③食材ロス管理表の運用

II. 水光熱取組

- ①釜の火力・さし湯量の調整
- ②3層シンクの運用
- ③井シンクの氷煎運用
- ④水道メータ値の記録



環境活動_店舗取組確認表

※達成率は店舗チェック時の評価を評点化。○を100%、△を40%、×を0%とし、チェック店舗で割った数値

取組	効果項目	環境活動計画内容	判断基準	達成率 ※1	評価 【達成率70%以上で達成】	次年度の取組
水光熱取組	電気・ガス・水	釜の調整 ①釜のON時間はマニュアル通りか	オープン75分前に釜電源ONができています	75%	【達成】	出勤者による電源ON時間の差異が出ないよう、お店のルールを店舗MTGで再度周知する
	電気・ガス・水	釜の調整 ②釜火力管理シートの掲示があり、運用しているか	時間別釜火力シートが掲示できています	25%	【未達成】 管理シートが無いことで、個人の采配で火力を決定している店が多い	店舗責任者もしくは担当者が最適な釜の火力およびさし湯量を実際のオペレーションで検証し決定する。その決定を見える化し、OJTでトレーニングを行う
	電気・ガス・水	釜の調整 ③さし湯温度、湯量調整がされているか	火力シートを元に火力、水量調整ができています	30%	【未達成】 管理シートが無いことで、個人の采配で火力を決定している店が多い	店舗責任者もしくは担当者が最適な釜の火力およびさし湯量を実際のオペレーションで検証し決定する。その決定を見える化し、OJTでトレーニングを行う
	水	3層(2層)シンクの運用 上位層シンクの水しか出さない(他の水栓は止める)	3層シンクが設置しており、原則最上位シンクの水で運用している	100%	【達成】	次のステップとして、最上位シンクの水量についての教育を実施する
	水	井シンク氷煎管理 シンクの水は止める	井用シンクが氷で管理している	50%	【未達成】 氷管理のメリットが担当従業員に十分伝わっておらず、実施率が低い	氷管理の方法を店長の手引きを元に、店長から全担当者に教育を行う。教育を行う際に行動のみでなく、行動の成果も合わせて伝える
	水	水道メーター数値報告 朝のメーター入力が行われているか	水道メータをデイリーチェックに打ち込んでいる	75%	【達成】	入力後の責任者チェックを実施し、異常値が発生した際に改善策を取れるようにする
フードコントロール	食品ロス一般廃棄物	仕込み表の運用 ランチディナーともに報告が来ている状態	仕込表があり、80%以上記入されている	85%	【達成】	責任者の交代等の発生によって取り組みが変わらぬよう、引継ぎを実施できる体制づくりを行う
	食品ロス一般廃棄物	発注書の運用 残数発注数の記載があり、発注定数が8割以上正しい	①発注表があり、正しい発注定数が記載されている ②残数の記載が80%以上あり ③発注数が(発注定数)-残数)と80%以上一致している	70%	【達成】	責任者の交代等の発生によって取り組みが変わらぬよう、引継ぎを実施できる体制づくりを行う
	食品ロス一般廃棄物	ロス管理 ①麺廃棄表運用 →掲示されて、記入している	①廃棄物の計量をおこなない、廃棄表に毎日記載されている ②ツールに入力されている	45%	【未達成】 麺廃棄量の計測において、使用備品の準備や動線の整備に不備がある	麺廃棄表、計量器等の備品を準備を行い、使用方法の再教育を店舗責任者が店舗MTGで再実施する。また、オペレーションしやすいよう作業動線の整備も行う
	食品ロス一般廃棄物	ロス管理 ②ロス管理表に記録を残している	ロス管理ツールに麺廃棄量および他の項目が入力されている	50%	【未達成】 ディナー従業員へのロス記録入力方法の教育が不足している	ロス記録表の準備とそ記録表に基づきデータをPC入力できるよう、特にディナー従業員を中心に教育を実施する

9.環境関連法規等の遵守状況

■環境法令一覧兼遵守評価		評価実施日: 2020年01月14日	評価者: 渡邊次郎			備考		
法規制等の名称	要求事項の内容		パウンダリー			備考		
	規制事項	規制内容	10店舗	丸亀全店	全社			
【国】 地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)	・温室効果ガスの排出抑制、削減 ・年間1500kl以上の事業者対象 ・排出量を算定して報告	・毎年7月末まで →(省エネ法定期報告内に記載)	○	○	○			
【北海道】 地球温暖化防止対策条例	・温室効果ガスの排出抑制、削減 ・年間1500kl以上の事業者対象 ・削減計画書を提出 ・実績報告書を提出	・計画書は3年に1度、7月末まで ・実績報告書は毎年12月末まで	-	○	○			
【埼玉県】 地球温暖化対策制度	・温室効果ガスの排出抑制、削減 ・年間1500kl以上の事業者対象 ・削減計画書を提出 ・実績報告書を提出 ・報告書を公開	・計画書は5年に1度、7月末まで ・実績報告書は毎年7月末まで ・報告内容をHPで公開	-	○	○			
【東京都】 地球温暖化対策報告書制度	・温室効果ガスの排出抑制、削減 ・年間3000kl以上の事業者対象 ・事業所別の排出量を報告 ・報告内容を公表	・毎年8月末までに報告書を提出 ・報告内容をHPで公開	○	○	○			
【神奈川県】 事業活動温暖化対策計画書制度	・温室効果ガスの排出抑制、削減 ・年間1500kl以上の事業者対象 ・削減計画書を提出 ・実績報告書を提出	・計画書は3年に1度、7月末まで ・実績報告書は毎年7月末まで	-	○	○			
【愛知県】 地球温暖化対策計画書制度	・温室効果ガスの排出抑制、削減 ・年間1500kl以上の事業者対象 ・削減計画書を提出 ・実績報告書を提出	・計画書は3年に1度、7月末まで ・実績報告書は毎年12月末まで	-	○	○			
【京都府】 事業者排出量削減計画・報告・公表制度	・温室効果ガスの排出抑制、削減 ・年間1500kl以上の事業者対象 ・削減計画書を提出 ・実績報告書を提出	・計画書は3年に1度、7月末まで ・実績報告書は毎年7月末まで ・環境マネジメントシステムの導入義務化	-	○	○			
【大阪府】温暖化対策防止条例	・温室効果ガスの排出抑制、削減 ・年間1500kl以上の事業者対象 ・削減計画書を提出 ・実績報告書を提出	・計画書は3年に1度、9月末まで ・実績報告書は毎年9月末まで	-	○	○			
【岡山県】 地球温暖化対策計画書制度	・温室効果ガスの排出抑制、削減 ・年間1500kl以上の事業者対象 ・削減計画書を提出 ・実績報告書を提出	・計画書は3年に1度、8月末まで ・実績報告書は毎年8月末まで	-	○	○			
【国】 フロン排出抑制法	・温室効果ガスの排出抑制、削減 ・業務用空調機・冷凍冷蔵庫等の定期点検と簡易点検 ・CO2の漏洩量が1000t/年以上の場合は報告	・第一種特定製品は四半期に一度の簡易点検 ・CO2の漏洩量が1000t以上の場合は報告 ・廃棄するフロンは適正に処理すること	○	未	未	・簡易点検実施済み ・全社合計の漏洩量が把握できていない → 2020年度より制度化 ・適正処理の記録確認済み		
【国】 省エネ法	・エネルギー使用の合理化 ・年間のエネルギー使用量を定期報告 ・中長期計画書を提出	・エネルギー使用原単位を5年平均で年1%以上削減 ・定期報告書を7月末までに提出 ・中長期計画書を7月末までに提出	○	○	○			
【国】 廃棄物処理法	・廃棄物の適正処理 ・産業廃棄物収集運搬処理契約書の締結 ・マニフェスト発行 ・保管基準の遵守 ・マニフェスト(紙)の交付状況報告	・排出事業者による管理責任を果たす ・有資格業者との文書による契約 ・マニフェストによる工程管理 ・保管基準の遵守 ・毎年6月までに、前年度のマニフェスト交付状況を都道府県別に報告 ・減量化計画提出	○	○	○			
【国】 食品リサイクル法	・食品廃棄物の発生抑制 ・食品廃棄物のリサイクル推進 ・年間100トン以上の排出事業者対象 ・定期報告書を提出	・排出量排出抑制目標: 170kg/売上百万円 ・再生利用実施率目標: 50%(2024年度まで) ・毎年6月末までに定期報告書を提出	○	○	○	全社ベースでも、基準実施率を満たせるように対策計画中です。		
【国】 容器包装リサイクル法	・容器包装の使用量抑制 ・容器包装多量排出事業者(50t以上)の定期報告書の提出 ・再生費用の拠出	・再生処理費用の報告及び支払い ・定期報告書の提出	○	○	○			
【その他の要求事項】 SC/テナントビル等の管内規則の遵守	・廃棄物の分別計量 ・省エネ施策等への協力等		○	○	○			

当社が遵守すべき環境関連法規及び条例に対する違反はありませんでした。
関係当局からの違反などの指摘もありませんでした。

10.代表者による全体評価と見直し

株式会社トリドールホールディングスの環境経営全体の取組状況及びその効果について確認検討した結果、来期の取り組みに向けて下記の通り指示する。

2020年2月18日 代表取締役社長 栗田 貴也

- | | |
|----------|---|
| 1. 対象範囲 | トリドールホールディングス、トリドールジャパンの関連部署及び認証取得対象10店舗 |
| 2. 対象期間 | 2019年11月～2020年1月 |
| 3. 取組の評価 | 食品ロス削減、リサイクル率向上、CO2排出削減などに極めて意欲的な目標を掲げ、その達成のためのレバレッジとしてEA21の導入を決定した。
当該期間では、継続的な環境負荷低減のための基本的な体制が整備され、外部から検証できる形でのPDCAが始動した。 |
| 4. 指示事項 | 以下3点について重点課題として取組むこと |
- ①:EMSの浸透定着を図り、着実に環境負荷低減を実現させること
 - ②:対象範囲拡大に向けた準備を進めること
 - ③:環境負荷低減活動に加えて、SDGsへの当社の取組等について、内外に積極的にPRすること